

九、集団宿泊指導の検証事項

(1) 集団宿泊指導の期間は何泊何日が望ましいか。

① 集団宿泊指導期間における児童の行動の変化

集団宿泊指導の望ましい期間について、児童の希望する期間と引率指導者が必要と考える期間の実態については、すでに一年次において明らかにしてきた。

二年次では、宿泊指導期間中の児童の行動の変化を段階的にとらえ、それをもとにした研修プログラムに従った集団宿泊指導を実施してきたので、ここでは、三泊四日の集団宿泊指導での児童の行動、班のまとまりのようすなどを取り出し、更に宿泊期間について考えてみたい。
なお、活動のようすについては、次の評価の観点を設け、観察してきた。

○ ひとつひとつの班について

A ひとりひとりが積極的に活動に参加している。

B 仲良く活動している。リーダーがよく動いている。

C 班員がばらばらで、まとまりがない。

○ 全体的にとらえて

A まとまりがよく、楽しそうな班がほとんどである。

B 二〜三まとまりのない班はあるが、他はよくまとまっている。

いる。

C うちわめや仲間はずれの班があるが、とても多い。

ア、研修活動における児童の変化

――観察による――

〔事例三泊四日 五年生「班の活動のようす」〕

三泊四日の宿泊期間の各研修活動

の時間での班のようすを整理すると左の表のようになる。

各班の活動のようすは、日を追って変化している。ここでは研修時間の活動だけを取り出したが、活動についての評定は、しだいにAがふえ、どの班でも「ひとりひとりが積極的に活動に参加」してきている。しかも第四日目の自由活動での子ども

もたちの活動のようすを見ると、われわれが「第三の段階」と呼んでいる集団宿泊指導のねらい、「個性を發揮し合い、しかも助け合いながら気がついたことを進んで実践するようになる。協同の精神に支えられて活動する。」にひじょうに近い。一泊では、とうてい、この段階に到達することはできないと思われる。

日	活動内容	評価		活動のようす
		全体	各班	
第一日 9/4	班会議 ○係ごとの発表 ○ロッジ内の生活についての話合い	B	A-2.6班 C-8班	8班の男女の対立した行動が目立つ。2.6班、班長のまとめようとする姿勢が良く、班員も積極的である。他はいずれも一応まとまっているようだが、いきいきしたところが少ない。
	水遊び	B	A-2.6.11班 C-1班	どの班も仲良くなってきている。特に6班は、M子(特殊児童・知能低い)を世話することで、班員全体がまとまって行くように思われる。2.6.11の各班は、男女の仲が良く、協力的。
	野外炊飯	B		どの班も活発に活動している。他の班への競争意識がおう盛。班内での協力し合うようすは、たいへんりっぱである。
第二日 9/5	フィールドワーク	A	A-1.5.8.10班	コース前半 どの班も意欲的。協力し合っている。「歌の国」での声もそろっている。特に沢の部分では、女子の手をひく男子もあられ、好ましい場面が散見できる。
		B	A-1.5.6.8班	こじきの関門 「喜ばせてから通りなさい」の指示の解釈をめぐっての話合いが活発。
		B	A-1.5.6.9.11班 C-7班	くらやみの国の関門 多くの班がまとまっている中で、7班がややばらばら、途中で他の班に追いこされ、意欲を欠く。
		A	A-1.2.3.5.6.7.8.9.10班	コース後半 心配した7班が、最後の難コースを声をかけ合いながら降りてくる。助け合っているようすが見られる。
	フォークダンスとゲームのつどい	A	A	初めのうちは、男女がとなり合うことに抵抗があり、ぎこちなかったが、しだいに打ちとけ、最後に全員で踊ったジェンカでは、男女のこだわりは消え、和気あいあいのふんい気であった。各班対抗のゲーム遊びでは、学習レク係を中心に、すべての班が知恵を出し合い活動した。